

## 原爆被爆者におけるヒトT細胞白血病ウイルス<sup>1</sup>と 関節リウマチ<sup>2</sup>有病の関連—横断研究<sup>3</sup>

ヒトT細胞白血病ウイルス（HTLV-1）と関節リウマチ（RA）との疫学的関連性を示した報告はこれまでほとんどありません。そこで今回、放影研の研究者は長崎原爆被爆者のHTLV-1抗体<sup>4</sup>を測定し、HTLV-1がRAに関連しているか、さらに放射線被ばくがHTLV-1やRAの有病に関連しているかを専門的な統計手法を用いて解析しました。

その結果、解析対象となった長崎成人健康調査（AHS）<sup>5</sup>の健診参加者2,091人の10.3%がHTLV-1抗体陽性でした。男女別の陽性率は、女性が13.1%、男性が5.8%で、女性が男性よりも明らかに高いことが確認されました。また、対象となった方全体の1.1%の方がRAと診断されました。RAがある方におけるHTLV-1抗体陽性率は23.7%、RAがない方のHTLV-1抗体陽性率は10.1%で、RAのある方のHTLV-1抗体陽性率は、年齢、性別、C型肝炎ウイルス感染を調整しても統計上明らかに高いことが判明しました。

結論として、原爆被爆者集団における今回の横断研究では、HTLV-1抗体陽性者ではRAにかかっている人が多くいることが示唆されました。しかしながら、放射線被ばくと、HTLV-1抗体陽性率もしくはRAとの間には関連性はありませんでした。

### 【注釈】

<sup>1</sup>ヒトT細胞白血病ウイルス（HTLV-1）：

白血球の一つであるTリンパ球に感染してまれに白血病を起こすウイルスです。長崎県はこのウイルスに感染している人が多いことが知られています。

<sup>2</sup>関節リウマチ(RA)：

自己免疫システムが全身の関節に慢性的な炎症を起こし、関節の破壊や変形により日常生活動作に著しく障害をきたす慢性疾患のことです。最近では炎症を早期に抑える治療が進歩し、関節の破壊や変形を起こさない人が増えています。

<sup>3</sup>横断研究：ある一定期間内の、ある調査対象となる集団の健康状態を調査する研究方法です。

<sup>4</sup>抗体：

体内に侵入した細菌やウイルスを体から排除するために作られる物質で、細菌やウイルスそれぞれに合った抗体が作られます。目的のウイルスに対する抗体の量を調べることでそのウイルスが感染しているかが判断できます。

<sup>5</sup>成人健康調査（AHS）：

2年ごとの健康診断を中心とした臨床調査プログラムです。主な目的は原爆放射線の健康に及ぼす影響調査で、約20,000人について1958年から行われています。

doi. 10.1097/MD.00000000000026297

doi (digital object identifiers) とは、ほとんどのデジタル情報に与えられた、コンテンツ (論文や作品等) 独自の不変番号で、インターネットの検索を通じてオンライン資料を特定するために用いられます。

本資料は、専門家でない方向けに出来るだけわかりやすく解説することを最優先しています。そのため専門的な内容は割愛しており、論文内容を完全に再現しているものではありません。より詳しい内容は専門の学術誌に掲載された論文をご覧ください。